

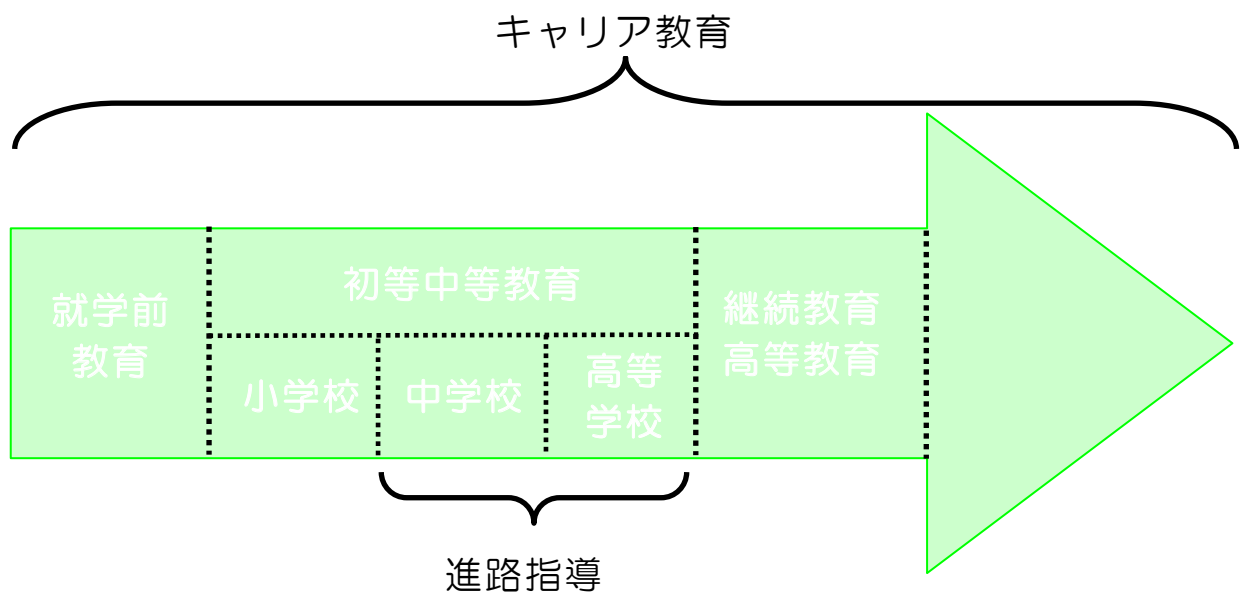
Ⅳ キャリア教育と進路指導

「生き方の指導」「在り方生き方に関する指導」などと呼ばれてきた進路指導とキャリア教育との関係を改めて捉えることで、これまでの学校における教育活動をより充実したものにすることが可能になります。

進路指導は、本来、生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験及び相談を通じて、生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、就職又は進学をして、更にその後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。

（中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成 23 年 1 月）

キャリア教育と進路指導との関係



キャリア教育は、就学前段階から初等中等教育・高等教育を貫き、若者を支援する様々な機関においても実践される一方、進路指導は、理念・概念やねらいにおいてキャリア教育と同じものですが、中学校・高等学校に限定される教育活動です。

■ 進路指導の現状と課題

〔現状〕

- 担当の教員と各教科担当の教員との連携が多くの学校で十分でない。
- 一人一人の発達を組織的・体系的に支援する意識や姿勢、指導計画における各活動の関連性や系統性等が希薄になっている。

〔課題〕

- 子供たちの意識の変容や能力や態度の育成に十分に結びついていない。
- 試験に合格させるための支援や指導に終始する実践になっている。

今、学校で行われている進路指導は、「卒業後に必要となる能力を育てるもの」となっていますか。